

令和7年度

進路の手引き

第1回進路説明会 資料



小平市立小平第三中学校

3年 組 番 氏名

目次

1	はじめに	...	P 1
2	進路を選択するにあたって	...	P 2
3	進路決定までの主な予定	...	P 3
4	中学校卒業後の主な進路	...	P 4
5	卒業生の主な進路先	...	P 5
6	評定について	...	P 6
7	都立高校の入試について	...	P 7
8	私立高校の入試について	...	P 1 1
9	都立高校インターネット出願について	...	P 1 3
1 0	推薦について	...	P 1 4
1 1	奨学金制度について	...	P 1 5
1 2	高校訪問について	...	P 1 6
1 3	保護者の方へのお願い	...	P 1 7

モチベーションがあがる名言

- 努力だ 勉強だ それが天才だ 誰よりも三倍 四倍 五倍 勉強する者 それが天才だ
(野口 英世)
- 努力は必ず報われる。もし報われない努力があるなら、それはまだ努力と呼べない。
(王 貞治)
- 小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道(イチロー)
- 世の中はなにかほしいと思ったら、そのためにそれなりの努力をしないとイケない。
(ドラえもん)
- あきらめたらそこで試合終了だよ。(安西先生)
- 常に進歩と変化を求める！それがやがて進化となる！(第3学年主任 来栖佑介)

【1】はじめに

運動会では3年生の気合いと頑張りが見られ、大成功で終わりました。後輩たちは、今年の3年生の姿を忘れることなく、来年の運動会も頑張ってくれることでしょう。これから3年生は修学旅行や音楽祭の準備を進めたりする時期になります。どの行事も、3年生にとっては中学校最後の行事です。運動会と同じように一つ一つのことに全力で取り組み、良い思い出にしてくれることを心から期待しています。

さて、いよいよ皆さんにとって大きな試練である進路について真剣に考える時期を迎えました。「進路」というと多くの人が高等学校への進学を考えます。しかしながら、将来について自分が進むべき方向のすべてが「進路」になります。これからの長い人生を見据えて、「将来どのようなことをしたいのか」「自分の特性を活かすにはどうすればよいのだろうか」などといったことも考えながら進路を考える必要があります。早いもので中学校を卒業するまであと9か月ほどになりました。9か月後の自分を想像してみてください。自分の進路が決定して、希望をもって卒業式を迎えることが最高のことであり、そのようになるために先生たちも全力でサポートをしていきます。そして10か月後には、自分が選んだ道で充実した日々を過ごしていることを何よりも願っています。そのためにも「これからの時間を有効に活用して、進路選択について決して人任せにせずに、自分自身で真剣に考えていくことが非常に重要です。」

残念ながら現在でも高校中途退学者が多くいます。教え子に話を聞いたりすると、「高校生活が面白くなかった」「想像していたものと違って悲しかった」というような声をよく耳にします。いったいその原因は何でしょうか。「高校に入学することだけ」が目標だったのでしょうか。それとも「進学先の高校の説明会に参加をしなかった」ことなののでしょうか。いずれにせよ、中学校の時の進路選択について何らかの課題があったのかもしれません。このようなことがないようにするためにも、進路について主体的に考えることがやはり大切で、「誰かに言われたから」という理由だけで進路を決定するのはできる限り避けるべきことです。

今、皆さんを見てみると、しっかりと目標をもって努力している人もいます。反対に、努力が足りない人や不安定な気持ちでいる人もいます。誰でも、悩むことも多くなってくるでしょう。それはごく当たり前のことです。だからこそ、これから自分一人で考えるのではなく、先生たちのアドバイスはもちろん、保護者の方との話し合いや先輩たちの話を聞いたりして、自分にあった進路選択をしてください。そして、その進路選択を最終的に決定するのは皆さん自身です。「最後は自分が責任をもって進路を選択し、決定する」ということを決して忘れることなく、日々の努力を重ねることで、希望する進路を実現させてください。

保護者の皆様にお願ひがあります。進路は決して他の生徒と比較するものではありません。お子様の適性や性格などを的確に把握し、納得できるように助言をしていただければと思います。お子様のことを一番よく知っているのは保護者の皆様です。「お子様との対話の時間を大切に」「高等学校などへの進学を考えているお子様には、合格できる学校ではなく、3年間継続して学び続けられる学校を考える」「進路に関する資料や情報を可能な限り収集し、それらを参考にする」という三点を特に意識しながら、学校と連携を図って進路について一緒に考えていけることが一番です。何かご質問や分からないことは担任や学年の教員などに遠慮なくご相談いただければと思います。ご協力、よろしくお願いいたします。

第1回目の進路説明会やこの「進路の手引き」が少しでもみんなのやる気を高め、「進路について真剣に考えよう」、「勉強を頑張ろう」と前向きな気持ちになれるきっかけになると嬉しいです。

【2】進路を選択するにあたって

1 進路選択にあたっての心構え

- (1) 進路の多様化が進んでいる。そのため、より自分の将来を見通して、その道筋として卒業後の進路を考える。
- (2) 自分をよく知る。(学力、興味、適性など)
- (3) 情報を収集する。(進路説明会、進路関係のお知らせ、高校説明会、授業公開、体験入学、高校案内、インターネットなど)
- (4) 中学校からの意見や情報を踏まえて、保護者と十分に相談する。
- (5) 家庭でよく話し合い、自分の意志で決定する。

中学卒業後の進路は、長い人生の中の一過程であって、最終的な目標ではありません。それぞれの夢・希望・目標を叶えるためには、どのような進路を選択すればよいかについて考えることが大切です。

2 生活態度の確立をはかる

- (1) 正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。
- (2) 服装・頭髪など、身だしなみをきちんとする。
- (3) 礼儀正しい態度を身に付けると共に、言葉遣いにも気を付ける。
- (4) 係や当番の仕事は責任をもって行う。
- (5) 勉強だけでなく、学校生活すべてに最善を尽くす。
- (6) 周囲の人に対する思いやりと感謝の気持ちをもつ。

生活態度の乱れは心の乱れとも考えられます。心の乱れや油断があると、これからの日々を充実したものとするのが難しくなることもあります。これからの生活の質をいかに向上させるかが、持てる力を最大限に発揮させる鍵になります。

3 学習習慣を身に付ける

- (1) 毎日の授業を大切にする。(学校の授業に集中して取り組むことも受験勉強の一つです)
- (2) 家庭学習を計画的に行う。(授業の予習・復習、1・2年の学習内容の総復習)
- (3) 課題等の提出物の期限をきちんと守る。

「受験勉強」だからといって、今すぐに肩肘を張る必要はありません。まずは、毎日の授業を大切にすることから始めましょう。また、学校の定期考査や外部の模試は結果も大切ですが、自分の学習成果を知り、弱点の克服に取り組むことがもっと大切です。そして、同じ問題や似たような問題が出題されたときに二度と間違えないことが大切です。入学試験は中学校3年間の学習内容から出題されます。1・2年生の学習内容の復習もしっかりとやっておかなければなりません。

自分のことや高等学校などを詳しく知り、自分の進路を主体的に切り拓いていきましょう！

【3】進路決定までの主な予定

月	主な行事	進路行事	内容
4月	・全国学力調査（4/17） ・保護者会（4/25）		学習計画を立てる方法の検討 ・1、2年の復習をできるだけ行い、理解する。
5月	・生徒総会（5/2） ・運動会（5/31） 現在の第一志望校合格のためにやるべきことを考える!!!	・第1回進路希望調査	・不得意教科を克服する。 ・けじめのある生活を送る。 ・自分の特性や適性を理解し、自分にあった進路を考える。
6月	・期末考査（6/18～6/20） 自分の現在の得点力を理解し、夏休みの学習目標を立てる。	・第1回進路説明会（6/4） ・第1回確認テスト（6/23）	進路の研究 ・高校入試の仕組みについて理解する。 ・学校説明会、文化祭等を見学してみる。
7月	・高校の先生の話聞く会（7/2） ・終業式（7/18）	・第2回進路希望調査 ・三者面談（7/18～）	・学校の特色を調べる。 ・自分にあった進路を考える。 ・志望校のホームページをチェックする。
9月	・生徒会役員選挙（9/12） ・修学旅行（9/6～8） ・中間考査（9/29・9/30）		夏休みの勉強 ・今までの復習を行う最後のチャンス!!! ・3年の1学期に学んだことも忘れずに復習しておく!!! ・勉強の息抜きも含めて、高校見学に行っておく。
10月	・音楽祭（10/30）	・第2回確認テスト（10/1） ・第2回進路説明会（10/15） ・第3回進路希望調査	進路の選択、決定 ・自分自身を見つめ直す。 ・保護者や先生とよく話し合う。
11月	・期末考査（11/12～14）	・第2回三者面談（11/4、6～11） ・第3回確認テスト（11/17） ・スピーキングテスト（本調査）（11/23） ・第4回進路希望調査（最終）	・目標に向かって努力する。 ・自分の進路について、自分で責任をもつよう意識づける。
12月	・保護者会（12/5） ・終業式（12/25）	・第3回進路面談（12/2～9） ・私立高校入試相談（12/15） ・面接練習開始（1月中旬まで）	入試に向けた学習 ・実力を養成するために、練習問題の積み重ねと弱点の補強をする。 ・志望校の出題傾向を研究する。 ・3年間の学習の総仕上げと再確認。 ・面接の受け方、出願の心得を学ぶ。
1月	・始業式（1/8）	・他県私立高校一般入試 ・都内私立高校推薦 ・私立高校推薦（1月中旬） ・都立高校推薦（26・27） ・面接、集団討論指導	受験期 ・入試直前の学習方法を考える。 ・自己PRカードの作成（12月から始める） （今まで積み重ねてきた活動内容、資格、部活動、総合学習等の取り組み、将来の希望・目的意識などをまとめる。）
2月	・学年末考査（2/25・26）	・私立、国立高校一般入試（2/10～） ・都立高校入試（2/21）	・体調を整え、生活のリズムを整える。 ・手続きの日程、手順の確認。
3月	・卒業式（3/19）	・私立二次試験 ・都立高校2次入試（3/10）	卒業に向けて ・中学校生活を振り返る。 ・お世話になった方々へのお礼。

【４】 中学校卒業後の主な進路

高等学校	全日制	○普通科 … ●一般教育(現在の学校生活と似ている)。 ●都立高校には単位制・コース制などがある。 ○専門学科 … ●農業・工科(工業)・商業(ビジネス)・産業・家庭・体育など。 ○総合学科 … ●共通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に応じて科目を選択。
	定時制	○普通科 … ●全日制と併設。 ●昼夜間定時制(砂川・八王子拓真など)。 ○専門学科 … ●商業科・工科(工業)など。
	通信制	○サポート校 … ●通信制の教材を使って学習指導がされる。 ○在宅 … ●自分で学習を進める。 (在宅が基本でも、週一で登校する場合などもある)
高等専門学校	・ 高度な専門技術者を育成するための学校。(5年制) ・ 短期大学卒業に準ずる資格。 ・ 大学3年生に編入資格あり。 例) 都内には、国立東京工業高専(八王子市)、都立産業技術高専(品川区、荒川区)などがある。	
専修学校	・ 美容、理容、洋裁、和裁、調理などがある。 ・ 3年制の高等課程では大学受験も可能。	
職業能力開発センター校	・ 1年間または半年間で職業実務を習得する。	
就職	・ ハローワーク(職業安定所)を通して入社手続きをする。 ・ 縁故関係を利用して就職したり、家業を手伝い、自営業を習得する。	

(注1) 専修学校やサポート校については、学校によって大きな違いがあります。各自でよく調べておくことが大切です。

(注2) 就職に関して何かありましたら、担当の蔵元までご連絡ください。

(注3) どの進路を選択しようと、まずは、希望する進路先に直接訪問するなどし、自分の目で雰囲気などを感じましょう。そして、早め早めに行動をおこし、11月や12月になって慌てて行動しないようにすることが大切です。

【5】卒業生(194名)の主な進学先(下線の高校は進学者が5人以上の学校)

【都立高校】(117名が進学)

《全日制普通科》

井草・清瀬・国立・久留米西・小金井北・国分寺・小平・小平西・小平南・駒場・鷺宮
石神井・昭和・神代・立川・田無・豊島・戸山・拝島・東久留米総合・東村山・東村山西
東大和・東大和南・府中・保谷・武蔵野北・武蔵丘

《全日制(普通科以外)》

蔵前工科(建築)・小平(外国語)・第五商業(ビジネス)・立川(創造理数)
田無工科(機械・建築)・多摩科学技術(科学技術)・中野工科(食品サイエンス)・農業(服飾)
農芸(園芸科学・食品科学)・府中工科(情報技術)

《定時制》

稔ヶ丘(チャレンジスクール)・砂川'(昼夜間定時制)・八王子拓真(昼夜間定時制)
立川緑(チャレンジスクール)

【都内私立高校】(47名が進学)

岩倉・錦城・啓明学園・昭和第一学園・白梅学園・聖パウロ学園・専修大学附属
拓殖大学第一・立川女子・中央大学杉並・東亜学園・東海大学菅生・桐朋
日本女子体育大二階堂・文華女子・武蔵野大学・八王子・明治学院東村山・明星・明星学園
早稲田大学高等学院

【都外私立高校】(7名が進学)

埼玉栄(埼玉)・東海大静岡翔陽(静岡)・日本航空石川(石川)・日大三島(静岡)・東野(埼玉)
武蔵野音楽大附属(埼玉)

【その他(高等専修学校・通信制・サポート校等)】(23名が進学)

飛鳥未来きずな・N高・大竹高等専修学校・クラーク記念国際・西武学館・第一学院
東京文理学院・トライ式高等学院・野田鎌田学園高等専修学校・バンタンデザイン研究所
日々輝学園・HR高等学院・八洲学園

※昨年度の卒業生は194名です。

志望校合格に向けて、
努力を重ねよう!!!



【6】 評価について

1 評価について

評価は5段階の絶対評価です。多くの高校では2学期の評価を調査書点としますが、2学期に出される評価は、3年1学期と2学期の成績を合わせた評価を出すことになっています。評価の決め方は各教科によって異なりますが、次の(1)～(3)などを評価を付けるための資料として使用することが多いです。

(1) テストの成績

- 1学期の定期考査(期末考査)
- 2学期の定期考査(中間考査・期末考査)
- 授業内に行う小テスト など

(2) 平常点

- 授業に意欲的に参加しているか。
- 意欲的に発言をしているか。
- ノートをきちんととっているか。
- 私語や居眠りなどをしていないか。
- 忘れ物はないか。
- 提出物を期限までにきちんと提出しているか。 など

(3) 実技点

実技教科(音楽、美術、保健体育、技術・家庭)では特に重視されます。作品などの仕上がり具合の他に、次のような点も加算されます。

- 真剣に取り組んでいるか。
- 教材や道具類、体育着などの忘れ物はないか。
- 作品が期限までに完成させて提出できたか。 など

2 調査書点(内申点)について

(1) 私立高校

- 素内申(9教科の評価を合計した数。満点は45点。)
→ 高校によっては、1学期の成績で判断してくれることもあります。

(2) 都立高校

- 換算内申(受検教科の評価はそのまま合計し、受検教科以外の評価は合計を2倍する)

① 5教科受検(国語・数学・英語・社会・理科)の場合：満点は65点

例) 以下の場合の換算内申

→ 「5教科の合計＝20」＋「技能教科の合計＝30(15×2)」＝ 換算内申50

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	4	5	4	3	5	4	3

② 3教科受検(国語・数学・英語)の場合：満点は75点 ※ 体育や芸術に関する学科は3教科受検(国語・数学・英語以外の評価の合計の数を2倍にする)

例) 以下の場合の換算内申

→ 「3教科の合計＝11」＋「社会・理科・技能教科の合計＝48(24×2)」＝ 換算内申59

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	4	5	4	3	5	4	3

【7】都立高校の入試について

1 入試日程

(1) 推薦入試 (注1)

出願期間	令和7年12月19日(金) ～ 令和8年1月16日(金)午後5時
試験日	令和8年1月26日(月)・27日(火)
合格発表日	令和8年2月 2日(月)

(注1)インターネットを活用した出願になります。

第一次募集及び分割前期募集についても同様にインターネット出願になります

(注2)分割募集は昼夜間定時制の学校において、定員を前期と後期に分割し、2回にわけて行う募集のことです。

(注3)産業技術高等専門学校の入試日程

① 推薦入試

→ 出願期間:令和8年1月9日(金)
～1月16日(金)

試験日:令和8年1月27日(火)

発表日:令和8年2月 2日(月)

② 第一次募集

→ 出願期間:令和8年1月30日(金)
～2月5日(木)

試験日:令和8年2月13日(金)

発表日:令和8年2月19日(木)

(2) 第一次募集及び分割前期募集 (注2)

出願期間	令和7年12月19日(金) ～ 令和8年2月5日(木)午後5時
試験日	令和8年2月21日(土)
合格発表日	令和8年3月 2日(月)

(3) 全日制第二次募集及び分割後期募集 (注2)

出願日	令和8年3月 5日(木)
試験日	令和8年3月10日(火)
合格発表日	令和8年3月13日(金)

2 入試制度

都立高校の入学選抜は推薦入試と一般入試(学力検査に基づく選抜)に分けられます。なお、一般入試において実施される分割前期募集と分割後期募集は、令和8年度入試より、昼夜間定時制の学校においてのみ実施される予定です。

3 推薦入試

(1) 推薦入試について

- ① 志望する都立高校1校に出願し、志願変更はできません。
- ② 合否は、基本的には、調査書(中学校の成績)、面接、作文または小論文、集団討論(昨年度実施校は13校)の成績で決定されます。基本的に調査書の点数は全体の半分以上を占める場合が多いです。実技検査を実施する高校については、その結果も含まれます。なお、個人面接に当たっては、自己PRカードが面接資料として活用されます。
- ③ 推薦枠の原則は、普通科は20%以内、工科・農業科・商業系学科・水産科・科学技術科は40%以内、その他の学科などは定員の30%以内です。
- ④ 卓越した能力をもつ生徒を対象とした文化・スポーツ等特別推薦も行われます。

(2) 応募資格

- ① 志望する都立高校が第1志望であること。合格したら入学することが前提。
- ② 在学する中学校長の推薦を受けた生徒。
- ③ 保護者と同居し、12月末日現在、都内に住所を有し、入学後も都内から通学することが確実な生徒。

(3) 留意点

- ① 推薦入試で合格した場合、入学辞退はできません。また、合格者は他の都立高校や私立高校を受験できません。
- ② 推薦入試は毎年受検者が多く、倍率も高い傾向が続いている(昨年度は 2.28倍)。また、応募倍率が3~4倍を超える高校もたくさんあります。したがって、都立高校の推薦入試は合格者よりも不合格者の方が多く、合格するのはかなり難しくなっています。あくまでも一般入試で合格するつもりで推薦入試の受検の準備をするようにしましょう。

【応募倍率の高かった学校(一部)】

例) 新宿(普通):5.31倍 / 東大和(普通):3.45倍 / 小平西(普通):2.89倍 / 鷺宮(普通):3.27倍
東村山(普通):3.88倍 / 国立(普通):3.44倍 / 石神井(普通):3.4倍 / 農業(食物):3.44倍
など

4 一般入試

(1) 第一次募集について

- ① 志望する都立高校1校に出願し、1回だけ志願変更ができます。
- ② 学力検査は、原則5教科(国・数・英・社・理)で実施されます。ただし、芸術及び体育に関する学科については、3教科(国・数・英)となります。また、面接や実技検査を実施する高校もあります。

注) 以下の10校は国・数・英の学力検査問題を自校で作成します。社会と理科は共通問題です。なお国際高校は英語の問題のみ、自校で作成します。

【学校名】: 日比谷、戸山、青山、西、国立、立川、八王子東、新宿、墨田川、国分寺

- ③ 学力検査と調査書の比重は、基本的に「学力検査:調査書=7:3」です。ただし、芸術及び体育に関する学科は「学力検査:調査書=6:4」です。
- ④ 調査書点は実技4教科の評定の合計点を2倍する。※ P6 参照
→ これを「換算内申」といい、オール5の場合、換算内申は65になります。
- ⑤ 合否の結果は、学力検査の得点(700点満点)、調査書点(300点満点)、英語スピーキングテスト(20点満点)の点数の合計を1020点満点の総合得点で判定します。また、面接、小論文又は作文及び実技検査を実施する高校はそれらの点数が加算されます。

〔点数化の方法〕総合得点 1020点

学力検査点700点+調査書点300点+英語スピーキングテスト20点 = 1020点満点
※11/23(日)実施予定

学力検査点 1000点満点 → 5教科の合計得点(100点満点×5教科)に1.4を掛ける。

例) 各教科の点数が55点の場合 → $(55 \times 5) \times 1.4 = 385$

調査書点 300点満点 → (換算内申×300)÷65で点数を出す。

例)

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保体	技家
4	3	5	5	3	3	4	5	3

実技4教科の合計を2倍すると、 $(3+4+5+3) \times 2 = 30$ 点(全教科5の場合は40点)になる。これに実技教科以外の5教科(国・数・英・社・理)の評定の合計は20であるので、この場合の換算内申は50になります。

そのため、調査書点は、 $50 \text{点} \times 300 \div 65 = 230$ 点(小数点以下は切り捨て)となります。

(2) 東京都中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)について

- ① 令和5年度入試から都立高校の合否を決める際にスピーキングテスト(ESAT-J)の評価を調査書に記載し、志願先の都立高校に提出することになりました。「都立高校の合否に影響する」ということになります。
- ② 都内在住の中学生は、基本的には受験をすることになっています。
- ③ 実施日

ア 本試験 令和7年11月23日(日) イ 予備日 令和7年12月14日(日)

④ 入試活用

第一次募集のみ。エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校等は対象外。

⑤ 調査書への記載

調査書の記載欄にスピーキングテスト結果(A～F:6段階評価)の記号を記入する。評価の点数化は以下のとおりです。

スピーキングテスト結果(評価)※1	A	B	C	D	E	F
都立高等学校入試での活用(点数化)	20点	16点	12点	8点	4点	0点

※ 各評価を得るために必要な点数 → 昨年度の平均点は65.2点(「B」評価をとっている人が多い)

A = 80～100点 / B = 65～79点 / C = 50～64点 / D = 35～49点 / E = 1～34点
F = 0点

⑥ スピーキングテストの重要度

1020点満点中の20点ということもあり、軽視しがちになりますが、油断は禁物です。なぜなら、この20点は調査書点を300点換算した際の5教科(国・数・英・社・理)の各教科が占める点(23.1点)に匹敵します。スピーキングテストは合否の鍵を握っていると言っても過言ではありません。

⑦ 平均点

- ・令和4年度=60.5点
- ・令和5年度=65.2点
- ・令和6年度=68.3点

(3) 都立高等学校入試の変更点(令和5年度入試から開始)

- ① インターネット出願に変更 ② 入学願書の性別欄の廃止
- ③ 調査書及び調査書記載成績通知書の「出欠の記録」欄の削除
- ④ 志願者が作成する自己PRカード、自己申告書、志願申告書(チャレンジスクール用)について、手書きに加えて電子ファイルへの入力及び印刷により作成して提出することが可能
- ⑤ 男女別定員制の撤廃(令和6年度入試から)
→ これまで全日制普通科(単位制及びコースを除く)で男女別の定員が設定されていたが、令和6年度入試からはすべての高校で男女合同選抜が実施されました。
- ⑥ 入学願書に使用する写真は10月1日(火)以降のものを使用。(変更の可能性大)

(4) 多様なタイプの学校の紹介

都立高校には多様なタイプの高校があり、ここ数年は、以下のタイプの都立高校の人气が高く、倍率も高い状況が続いています。

- ① チャレンジスクール：主に小・中学校で不登校の経験があったりし、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が目標に向けてチャレンジする高校。

〈特色〉・学力検査や調査書点で判定せず、面接試験や作文の試験などで可否を判定する。生徒の学習や学校生活への意欲を重視した入試を行う。

・基礎と基本を重視した学習を行うとともに、いろいろな専門科目が設置されている。

〈学校一覧〉 稔ヶ丘(中野区)、桐ヶ丘(北区)、世田谷泉(世田谷区)、六本木(港区)、大江戸(江東区)
小台橋(足立区)、※立川緑

※ 令和7年4月より、立川市に新たに開校されました。

- ② エンカレッジスクール：小・中学校で十分に能力が発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の高校。

〈特色〉・きめ細かい指導を行うために、2人担任制を導入している。

・1年次は30分授業であり、午前中は座学、午後は体験学習及び選択授業が中心であり、集中力が持続できるようにしている。

・少人数制、習熟度別授業を導入している。

〈学校一覧〉 秋留台(あきる野市)、東村山(東村山市)、中野工科(中野区)、練馬工科(練馬)、足立東(足立区)
蒲田(大田区)

- ③ 昼夜間定時制：自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、Ⅰ部(午前部)・Ⅱ部(午後部)・Ⅲ部(夜間部)の3つの部の中から選んで入学する。

〈特色〉・チャレンジスクールやエンカレッジスクールと異なり、学力検査がある。

・Ⅰ部(午前部)、Ⅱ部(午後部)、Ⅲ部(夜間部)の中から自分の所属する部を選び、1日4時間ずつ4年間をかけて学ぶことが基本であるが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられるため、3年で卒業することも可能。

・基礎と基本を重視し、習熟度別授業や少人数指導などを取り入れている。

・学校外での活動が単位として認定されることがある。

〈学校一覧〉 砂川(立川市)、八王子拓真(八王子市)、荻窪(杉並区)、新宿山吹(新宿)、一橋(千代田区)
浅草(台東区)

(5) 昨年度の都立高入試の結果を受けて

- ① 推薦入試においては、女子の方が高い内申をもっている傾向があり、内申の比重が高い推薦入試では、女子が有利な状況になっていると考えられます。また、集団討論を導入する高校も増えていくことが予想されます。

- ② 東京都の就学支援金の所得制限撤廃により、私立高校を第1志望とする生徒が増え、都立入試では推薦入試や一般入試の倍率が下がりました。しかし、人気校や上位校の都立高校入試の倍率は高い状況が続いているので、油断することはできません。

- ③ 都立高校の魅力を紹介している「#だから都立高」をご覧くださいと、都立高校について詳しく知ることができま
す。東京都教育委員会のホームページよりご覧

【8】私立高校の入試について

1 入試制度

都内私立高校においては、次のような制度で区分している学校が多いです。

(埼玉県内の私立高校では別の制度があるほか、日程も早めなので注意が必要です。)

	推 薦	併願優遇	第1志望優遇	一般受験
概要	・ほとんどの学校で導入。 ・合格した場合、必ず入学することが前提。	・導入している学校が多い。 ・第1志望(公立高校)が不合格だった場合、入学することが条件。	・一般入試の際、優遇措置を設ける。	・基本的に、当日のテストの点数のみで合否が決まる。
他校との併願	・できない。	・公立高校1校のみという場合が多い。 ・他の私立高校との併願を認めている学校もある。	・できるが、合格した場合は、必ず入学することが前提。	・何校でも受験できる。(制約はない)
試験	・調査書と面接。 ・作文や適性検査を実施する学校もある。	・一般入試日に学科試験を受験する。 ・面接試験を実施している学校もある。	・一般入試日に学科試験を受験する。 ・面接試験を実施している学校もある。	・一般入試日に学科試験を受験する。
試験日	1月22日が多い	2月10日・11日・12日 が多い		
合 否 の可能性	・推薦基準をクリアし、事前相談で受験を認められた場合は、合格の可能性が高い。	・併願優遇の基準をクリアしていれば、合格の可能性は高い。 ・学科試験や面接が極端に悪い場合は、不合格となる。	・第1志望基準をクリアしていると、入試点に加点(+20点など)されるケースが多い。 ・入試得点次第で合否が判定される。	・調査書等、総合的に合否の判定をするが、あくまでも当日の入試得点が大きな比重をもつ。
備考	・いずれの形態も、高校から提示された基準を満たしていなければならない。 ・基本的には中学側と高校側の教員による「入試相談」が必要。			

(注) 一部の学校(大学付属高校が多い)では、推薦基準が出願するための最低条件という意味になっていることがほとんどです。基準に満たしていても、合格の可能性が高くなるわけではなく、当日の筆記試験などで合格するための点数をしっかりとらないといけません。

例) 中央大学杉並高校の推薦基準(昨年度):9科37

→ 9科で37以上あれば、推薦で受験できるが、合否は当日の入試の得点で左右されます。

2 推薦入試

- (1) 受験条件: その高校が第1志望である。つまり「合格したら必ずその高校に入学する」という希望のある生徒のみ受験できます。
- (2) 試験科目: 適性検査(国・数・英の場合が多いが、社会と理科も試験科目としている高校もある)その他に面接、作文など
- (3) 試験日: 令和8年1月22日頃(埼玉県は例年1月中旬)。
- (4) 推薦基準(評定): それぞれの高校で推薦の基準を定めている。

(例) 都内のある私立高校の推薦基準(昨年度)

<難関コース> 3教科(国・数・英)「13」または5教科(国・数・英・社・理)「22」

<総進コース> 3教科「12」以上または5教科「20」

- (5) 推薦基準(評定以外): それぞれの学校によって大きく異なるので、説明会などで確認をしておく必要があります。内申の基準を満たしていても、欠席・遅刻・早退などが多い場合は、推薦や併願優遇での受験ができない場合もあります。

例)・いずれのコースも、9教科で「1」を含む場合は、原則的に不可

・3年次の欠席10日以内

・下記事項に該当する生徒は、加点制度あり

→ 検定3級以上で加点+1、3ヶ年無欠席で+1、同一部活3年間継続で+1 など

- (6) その他: 推薦入試で不合格になっても、同じ高校を一般受験することができます。

3 一般入試

- (1) 受験条件: 誰でも希望する高校を受験できます。
- (2) 試験科目: 基本的には国語・数学・英語の3教科の場合が多い。面接を実施する高校もあります。
- (3) 試験日: 令和8年2月10日以降(埼玉県は1月下旬)
- (4) 併願優遇制度: 都立高校を第1志望にしているが、都立高校が不合格のときは必ずその高校に入学したいという希望がある生徒に適用されます。この場合の基準は、推薦入試より高めに設定されることが多いです。
- (5) 第1志望優遇制度: その高校が第1志望の場合、一般の受験者よりも優遇されます。
(高校によって違うが、総合得点に20点加算するなど)

(注1) 推薦と同様に、私立高校を(4)と(5)で受験を希望する場合は、原則、受験する私立高校で個別相談等を受ける必要があります。個別相談等を受けないと、(4)と(5)を利用して受験することができない私立高校もあります。

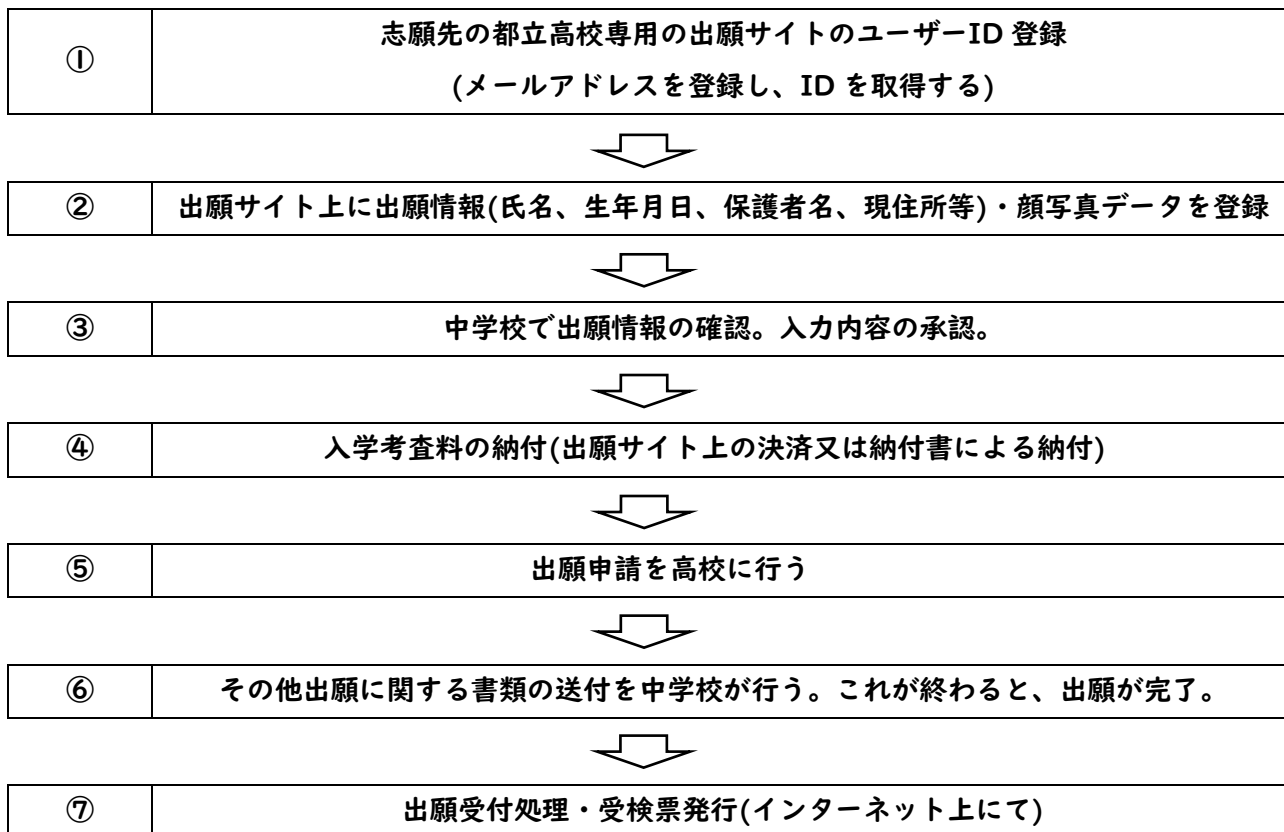
(注2) 埼玉県の私立高校の入試日程や選抜方法は東京都と異なりますので、事前によく調べ、担任と必ず相談をするようにしてください。

4 留意点

- (1) 推薦、併願優遇、第一志望優遇などの制度を利用して受験する場合、12月中旬頃に中学校の教員がそれぞれの高校に出向いて事前に合格の可能性について相談する入試相談会があります。この入試相談で高校の承認を受けないと受験をすることができなくなります。
- (2) 私立高校を推薦、併願優遇、第一志望優遇などの制度を利用して受験する場合、遅くとも12月の上旬までには受験する高校を決めなければなりません。当然、それ以前に志望する高校の学校見学をし、個別相談を受けておく必要があります。
- (3) 公立高校との学費の差を埋めるべく学校独自の特待生制度を導入する学校も増えていたり、東京都による授業料軽減助成金制度の活用が広がっています。
- (4) 私立高校は学校によって校風が大きく異なります。入学後に後悔しないようにするためにも、内申や模試の偏差値だけで判断することなく、学校説明会などにしっかりと参加し、学校の特色をしっかりと把握しておく必要があります。
- (5) 夏休み以降、私立高校の学校説明会などに行く際は、通知表のコピーや模試の結果を持参するとよいでしょう。個別相談を受ける場合は、持参するようにしてください。高校の先生方は、通知表などの資料を参考にして話をしてくださいます。
- (6) 学校説明会や個別相談会は事前予約制の場合が多く、人気校ではなかなか予約がとれない事態が起きます。ホームページから予約をすることが多いので、希望する高校のホームページを日頃からチェックしておくといでしょう。

【9】都立高校インターネット出願について

インターネット出願の流れ(詳細については、第2回進路説明会でお知らせいたします。)



【10】 推薦について

小平第三中学校の学校推薦について

1 「学校推薦とは」

- (1) 「学校推薦」とは、中学校と高校(高等専門学校や通信制高校を含む)の信頼関係に基づいて成り立つ制度で、校長先生が責任をもって高校に推薦をするものである。
- (2) 都立高等学校及び私立高等学校の「推薦入試」に際して、校長先生が生徒が受験(検)する高校に対して、小平第三中学校の生徒を責任をもって推薦すること。
- (3) 「学校推薦」を希望する場合は、下記の推薦基準を満たした上、校内推薦委員会において検討し、全教員の承認を得て、最後に校長先生が推薦を決定する。

2 小平第三中学校の学校推薦の基準

- (1) 下記の条件を満たす場合に推薦が可能となる。

- 1 志望の動機が明確であり、合格したら必ず入学すること。
- 2 志望校(主に私立高等学校)の推薦基準を満たしていること。
- 3 日常生活の生活態度が良好な者。
 - ・ 本校のきまりを守り、基本的生活習慣がしっかりと身に付いていること。
→ 身だしなみ(化粧など)、ピアス、靴のかかとつぶし、朝読書を含めた出欠席の状況など
 - ・ 法に触れる行為がない者
→ 飲酒、喫煙、万引き(窃盗)、対人暴力、器物破損、いじめなど
- 4 学級活動、学校行事、生徒会委員会活動、奉仕活動、部活動などに責任をもって取り組み、協力してきた者。
- 5 学習意欲があり、真剣に授業に取り組み、授業を妨げていない者。
- 6 推薦者として決定した後も、上記の1～5の条件を必ず守り、学校生活を過ごすことができる者。

ただ一度の過失を基にして、推薦するかどうかを決めることはない。しかし、何度も注意を受け、改善が見られない場合は「学校推薦」を与えることができない場合がある。

※昨年度までは、「学校推薦」を受けることができない者は私立高等学校の「併願優遇制度」を利用することができなかったが、本年度より、この決まりはなくなる。

【11】奨学金制度について

中学校までと違い、高校に通学するにはかなりの学費がかかります。経済的に厳しいという場合、奨学金制度を利用することができます。各都道府県や民間団体による奨学金はほとんど無利息で、社会に出てから返還すればよいという制度です。いくつか種類がありますが、2つ以上兼ねることができない場合もあります。

令和5年12月に授業料の実質無償化について、所得の制限をなくすことが発表されました。東京都では、生徒と保護者が都内在住であることを条件に東京都独自の制度である「私立高等学校等授業料軽減助成金」が設けられています。しかし、この助成金はあくまで授業料の援助であり、私立高校などでは他にも入学金や修学旅行、部活動費などをはじめ、様々なところで費用がかかります。以下にその他の奨学金制度を紹介いたします。

種 類	出願資格	奨学金	返還期間	申込
東京都育英資金	・勉学の意欲があること ・都内在住 ・連帯保証人を2人立てられることなど	・国公立 18,000 円 ・私立 35,000 円	概ね 11年～13年 (無利子)	7月15日(火) ※学校が申し込む
交通遺児育英会	・保護者が交通事故で死亡又は後遺症で働けない	・月額 2万円、3万円、4万円から選択 ・入学一時金 20万円、40万円 60万円から選択	20年以内 (無利子)	・令和8年1月末まで
あしなが育英会	・保護者が病気、災害、自死などで死亡、あるいは1～5級の障がい認定を受けている	・月額3万円(給付) ・私立高校入学一時金 → 30万円	20年以内 (無利子)	・9月1日開始予定。

(注1) 希望される方や奨学金の利用を考えている方は、担当の蔵元までご連絡ください。

(注2) 今後、学年通信等で上記以外の奨学金制度についてもお知らせいたしますので、ご確認ください。

(注3) あくまで、現在の情報です。詳しい内容については、各育英会のホームページでご確認ください。

【12】高校訪問について

1 事前に連絡すること

見学会や説明会に参加する場合には、基本的には事前にホームページや電話で確認をとるようにしてください。インターネットで予約する学校も多くなっています。予約などをしないで説明会に行っても参加をすることができないかもしれません。なお、事前予約をしておきながら、やむを得ない事情により行けなくなった場合には、礼儀として必ず高校に欠席の連絡をしましょう。また、「申し込みは中学校単位で」と指定されている場合は、早めに担任の先生に申し出てください。

2 中学生らしい服装(＝標準服)で行くこと

「受験生」として訪問させていただくので、失礼のないようにしましょう。中学生らしい服装で、訪問し、礼儀正しい態度と言葉遣いに加え、きちんとした挨拶を心がけましょう。自転車での訪問も基本的にはできません。

3 その他

(1) 学校見学の記録をしよう

見学会、説明会はもちろん、個別に訪問した際にも必ずメモを取りましょう。交通アクセス(3年間通えるか)、学校の様子などを記録して、あとで比較できるようにしましょう。

(2) 可能な限り、保護者同伴で訪問すること

よりよい志望校選びのために、保護者の方々にも自分の意思と進学したい高校の様子を十分に理解しておいてもらう必要があります。特に学費面や卒業生の進路など保護者の方ならではの複数の観点でチェックするとよいでしょう。また、私立高校では推薦や併願優遇での受験にあたり、個別相談を必須としている学校もあります。基本的には個別相談の際には保護者も一緒に参加をしてもらいましょう。

(3) 学校説明会で確認しておくこと

- ① 通勤時間帯の電車の乗り継ぎや混雑具合 ② 部活動や学校行事の内容
- ③ 生徒の雰囲気、先生との関係 ④ 進路指導方針と卒業後の進路、大学合格・就職実績など
- ⑤ 習熟度別授業や、朝・放課後、長期休業中の補習などの実施状況
- ⑥ 授業以外の費用(諸経費、定期代など)

(4) 説明会の注意点

- ① 実力相応校、チャレンジ校、安全圏の3校を見学できるのが最良です。「現在の学力に合った高校」「成績が上がった場合の高校」、「成績が下がった場合の高校」の3パターンを想定して説明会に行けるのがベストです。
- ② 「夏休みになってからでいいや」ではなく、私立高校は特に、1学期の間から行けるようであれば行ったほうがよいでしょう。最近、高校説明会の予約はネット予約がほとんどです。例年、人気がある高校ではすぐに締め切りになってしまい、11月ギリギリに初めて志望校を訪問するケースが多くみられます。
- ③ 定期考査の点数が良いからといって、実際の入試で点数が取れるとは限りません。定期考査はあくまで試験範囲が限られており、入試問題は範囲が非常に広いです。試験範囲が広い模擬試験を積極的に受けて、自身の実力を理解して志望校を考えていきましょう。なお、模擬試験の結果が出たら、担任の先生に伝えるようにしてください。

【13】保護者の方へのお願い

1 受験や進路選択を特別視せず、毎日の積み重ねと考えてください。

- ① 規則正しい生活リズムをもたせてください。
- ② 基本的生活習慣（時間、あいさつ、礼儀、身だしなみなど）を大切に生活させてください。
- ③ 良い体調で毎日の生活を送らせてください。（食事、睡眠時間など）

2 進路についての十分な話し合いをお願いします。

- ① 話し合いの機会を増やし、お互いの考えをよく理解し合っていただけると助かります。できれば、まずはお子様の話を聞いてあげてください。アドバイスはそれからです。
- ② 学校からの連絡や情報を確実に聞いてください。

3 確実な情報の把握をしてください。

- ① 進路決定までの流れ、日程、受験制度など、お子様と同じように保護者自身も知っておくことが大切です。
- ② 学校説明会や見学会なども一度は同伴し、進学先のことも十分に把握してください。

4 三者面談に向けて

今後学校で予定されている面談は、7月、11月、12月の3回です。わずか20分程度の時間ですが進路決定に向けての情報を得て相談するだけでなく、お子様自身が自分の言葉で希望の進路や合格を目指す「決意」を表明し、急激に飛躍する機会でもあります。その大切な機会を有効に活用するためにも、家庭での話し合いを十分に行い、お子様と保護者の考えを一致させておいてください。また、面談で知りたいことを明確にしておくことも大切なことです。

5 書類の作成・提出について

進路に関する書類はお子様の人生に大きく影響するものでもあります。認め印は、「保護者として了解しています。」という意味を表しますので、必ず保護者の方がご覧になって間違いがないかを点検して下さるようお願いいたします。なお、公的な書類の認め印には朱肉を使って押印することになりますので、よろしくお願いします。（ゴム印（シャチハタ）は不可。）また、締め切り期限を必ず守って提出させるようにしてください。

6 写真撮影や受験の時など、頭髪・服装に十分に気を付けてあげてください。

受験写真は、だらしない格好で撮影したのではマイナスです。服装面でも清潔感が求められます。高校の見学や体験入学・願書をもらいに行くときや出願、受験に出かける時など、全ての場面で頭髪や服装に気を配るようにご指導ください。

最後に・・・

頑張れ三年生!!!

企画・制作

小平市立小平第三中学校 進路学習部

〒187-0011 小平市鈴木町1丁目311番地

☎ 042-341-0575